

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様を中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。	開設以来の理念は職員のケアの基本となっており、入居者を中心とした穏やかな生活が営まれている。入居者の状況・体調等に合わせ、統一の中にも臨機応変が見られ、入居者それぞれを中心とした生活である。	職員面談でも入居者・入居者の声を尊重したケアが行われている様子が聞かれました。コロナ禍で開設10年を迎えたこともあり、全職員会議等で理念の振り返りと共有・実践について考える機会作りを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。現在コロナにて面会をホールで、居室の窓越しになど工夫しています。	近年近隣の住宅化がすすみ、新たな「地域」の形となりつつある中、コロナ禍が続いたこともあり、地域との連携は難しい状況であった。地域清掃等、以前からの関わりは続いている。近隣からの入居もあり、入居者・家族とも地域を感じる話題も日常的に見られる。近隣には若い世代の住民も増えたことから、今後、地域の家族・子ども等との関係づくりを模索しているところである。	数年前から周辺には新しい住宅も増えたことから、事業所でも地域との関係作り・連携について検討されている様子が聞かれました。今後の取組みで実現することに期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。	コロナ禍で対面での会議開催が難しい状況が続いたが、再開したところである。会議では行政・地域との連携を深めると共に、事業所による入居者への支援や対応への取組み計画、家族への協力依頼等、事業所の検討事項等も伝え、意見を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながらまた、役場の事業計画にも参加、それ以外にも質問・相談・報告を行い、その都度連携を取っている。	担当部署とは日頃の報告・連絡・相談等により連携を行っており、運営推進会議の参加により定期的に事業所の取組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないようにミーティングで発言できる場を設けている。	日々のケアの中で配慮する事例等には都度管理者から伝えている。日常の場面で注意する場面があった際にはその場で話し合う機会を持っている。不適切介護報道等の際には印刷物で全職員確認し、共有している。	コロナ禍等で全体ミーティングや勉強会等の開催が難しい状況が続いた様子が見られました。定期的な研修・勉強会等を開催することで、日頃のケアの見直しや振り返り・共有の機会作りが必要と考えます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権等について学ぶ職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様へ十分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や介護報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し苦情や不満など題し易いようにしている	入居者家族が毎月、介護負担金等の支払いの為に来所されており、入居者と会い、職員からは現状報告等を行っている。その他、事業所から家族への電話報告や状況報告書の送付等、入居者の状況を共有するとともに、家族からも意見を表すことのできる関係作りを継続している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為の努力をしている。	各ユニットに管理者が置かれ、日々の業務で必要が生じた際には都度職員間で話し合い、申し送りやユニット職員会議等で共有している。日常業務の中でも職員は管理者へ意見を表すことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、各自スタッフと相談、面談も受けながら残業した時は、手当を付ける等、労働条件の整備をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。両ユニットで周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームで連携を取り、困難事例や職員間の問題がある場合は検討し話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせて軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で近況報告し、安心して頂くと共に、ご家族様との絆を大切に、ご家族だけの時間も提供する。ご家族の協力のもと一体となって入居者を支えている事を理解していただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の今までの繋がりが継続して出来るように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹、子供様など日時を合わせていただけるよう支援したり、ご家族とのふれあいを大切にしている。	コロナ禍により数年支援が難しい状況も続いたが、入居者と家族の関係を大切に、季節の帰宅や入居者と家族の会話の場の提供等を続けてきた。地域からの入居例もあり、家族との交流は地域との繋がりともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押してあげたりなど様子を見ながら、手を差しのべられる方もあります。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。	入居者の状況は様々であるが、それぞれの過ごし方の好みやその日の様子を把握・共有している。訪問時に入居者それぞれが思い思いに自由に過ごす様子が聞かれた。訪問販売車で菓子・パンが並び、訪問の際には入居者が希望の商品を選ぶ姿もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様から情報でアセスメント、フェイスシート作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。	日々の入居者の様子は申し送り等で共有している。評価・モニタリングは毎月行っており、入居者のその日の体調変化の気付き等はその場で職員間で話し合い対応を検討し、必要に応じ介護計画の見直しへと繋げている。家族来所の際には意見や要望を確認し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るよう努めている。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている。方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しませております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又、往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ている。	入居前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は協力病院の受診も多く、職員付き添いによる通院が殆どである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行つて様子を伺っている。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所でできる事を説明し、話し合つて方針を共有している。	重度化・終末期に向けた方針と事業所の対応は入居時に説明し同意を得ている。入居者の日々の体調変化等は職員の寄り添いによる気づきもよく見られ、食事が入らなくなったり治療が必要とされる場合は入院となるケースも多い。実際にその時を迎える際には家族・関係機関と話し合いを重ね支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練地域の方々の支援も受けながら実施しています。日中・夜間の想定し、年2回の消火、通報、避難訓練を実施し、実際に、安全にすばやく対応できるように取り組んでいます。	年2回の避難訓練(昼・夜)は入居者も参加し行っている。訓練の際は消防署からの指導を受け、指摘を受けた点への対応も行い改善した。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。	日頃の業務の中で、オムツ交換や入浴、トイレ利用時等の対応にて管理者から職員へ話す機会を持っている。法人職員も参加する全体ミーティングでは、利用者への言葉遣いや職員間の言葉遣い等についても確認する機会を持った。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服薬等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいます。(月1回訪問理容も利用している)	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。	入居者の好みや希望も考慮し、献立作りから買い物・提供まで各ユニットの職員で行っている。好みの食材を取入れ季節感を感じる食事提供への工夫を運営推進会議でも報告している。毎週パンの移動販売車の来所があり、好みのパンを選ぶ入居者の姿も見られる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。	

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやおむつを確認したり、おむつ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者の身体状況にもよるが、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。訴えが見られない場合には時間をみて声掛け誘導も行う。場所や行動にこだわりが見られるケースもあり、それぞれに合わせた対応を行っている。便秘に備え、水分確認や乳酸飲料等の提供も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをしてもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。	週2回の入浴を基本とし、一対一で支援を行っている。現在は車椅子利用や介護度が高い入居者も増えたことより、安全確保・プライバシーへの配慮を行いながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、健康ウォークに参加した事もあります。	従来より日常的に散歩等を行っていたが、近年車椅子利用の入居者も増え、個々に合わせた外出支援を行っている。通院も外出の機会である。生活の中ではゴミ出しや庭に出る等、数分でも外気を感じる機会作りを行っている。お盆の一時帰宅等、家族の協力も見られる入居者もおられる。	

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払いするなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来るようになっています。台所での様子や準備に食器を洗う音などが聞こえ、生活感を感じられます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。	玄関ホールを挟み両側に各ユニットがあり、それぞれに台所・浴室も備え、生活が営まれている。台所では毎日三食の食事作りを感じることが出来る。居室・リビングだけでなく、廊下のソファでは外の様子をのんびり眺める姿が見られたりと、思いの時間を過ごす様子がある。廊下等には手摺りもあり安全に移動姿もある。ユニット間の行き来も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトをしており、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。	生活用品からも家族の関わりを感じる。ユニットによっては入居者の状況によりスポンジマットを敷く等、安全への配慮も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置しており、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル さくらユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	令和5年 8月 18日	評価結果市町村報告日	令和5年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協体制度も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握に努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍も落ち着き、安全に配慮しながらの運営推進会議の再開等、以前の生活に戻りつつある様子が聞かれ、日々の生活では入居者それぞれが思い思いに過ごす様子が聞かれました。日頃から家族との関わりも見られ、事業所・家族が共に入居者を支える姿がありました。近年近隣の住宅化が進み、町の様子もすっかり変わったことで若い世代や子どもの姿が増えたようです。事業所でも新たな地域交流の方法を模索し、入居者の喜ぶ姿・笑顔ある生活のための支援に向かう様子が聞かれました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年9月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル かえでユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	令和5年 8月 18日	評価結果市町村報告日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協力体制も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握に努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍も落ち着き、安全に配慮しながらの運営推進会議の再開等、以前の生活に戻りつつある様子が聞かれ、日々の生活では入居者それぞれが思い思いに過ごす様子が聞かれました。日頃から家族との関わりも見られ、事業所・家族が共に入居者を支える姿がありました。近年近隣の住宅化が進み、町の様子もすっかり変わったことで若い世代や子どもの姿が増えたようです。事業所でも新たな地域交流の方法を模索し、入居者の喜ぶ姿・笑顔ある生活のための支援に向かう様子が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様を中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。	開設以来の理念は職員のケアの基本となっており、入居者を中心とした穏やかな生活が営まれている。入居者の状況・体調等に合わせ、統一の中にも臨機応変が見られ、入居者それぞれを中心とした生活である。	職員面談でも入居者・入居者の声を尊重したケアが行われている様子が聞かれました。コロナ禍で開設10年を迎えたこともあり、全職員会議等で理念の振り返りと共有・実践について考える機会作りを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。現在コロナにて面会をホールで、居室の窓越しになど工夫しています。	近年近隣の住宅化がすすみ、新たな「地域」の形となりつつある中、コロナ禍が続いたこともあり、地域との連携は難しい状況であった。地域清掃等、以前からの関わりは続いている。近隣からの入居もあり、入居者・家族とも地域を感じる話題も日常的に見られる。近隣には若い世代の住民も増えたことから、今後、地域の家族・子ども等との関係づくりを模索しているところである。	数年前から周辺には新しい住宅も増えたことから、事業所でも地域との関係作り・連携について検討されている様子が聞かれました。今後の取組みで実現することに期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。	コロナ禍で対面での会議開催が難しい状況が続いたが、再開したところである。会議では行政・地域との連携を深めると共に、事業所による入居者への支援や対応への取組み計画、家族への協力依頼等、事業所の検討事項等も伝え、意見を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながらまた、役場の事業計画にも参加、それ以外にも質問・相談・報告を行い、その都度連携を取っている。	担当部署とは日頃の報告・連絡・相談等により連携を行っており、運営推進会議の参加により定期的に事業所の取組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないようにミーティングで発言できる場を設けている。	日々のケアの中で配慮する事例等には都度管理者から伝えている。日常の場面で注意する場面があった際にはその場で話し合う機会を持っている。不適切介護報道等の際には印刷物で全職員確認し、共有している。	コロナ禍等で全体ミーティングや勉強会等の開催が難しい状況が続いた様子が見られました。定期的な研修・勉強会等を開催することで、日頃のケアの見直しや振り返り・共有の機会作りが必要と考えます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権等について学び職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様へ十分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や介護報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し苦情や不満など題し易いようにしている	入居者家族が毎月、介護負担金等の支払いの為に来所されており、入居者と会い、職員からは現状報告等を行っている。その他、事業所から家族への電話報告や状況報告書の送付等、入居者の状況を共有するとともに、家族からも意見を表すことのできる関係作りを継続している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為の努力をしている。	各ユニットに管理者が置かれ、日々の業務で必要が生じた際には都度職員間で話し合い、申し送りやユニット職員会議等で共有している。日常業務の中でも職員は管理者へ意見を表すことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、各自スタッフと相談、面談も受けながら残業した時は、手当を付ける等、労働条件の整備をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。両ユニットで周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームで連携を取り、困難事例や職員間の問題がある場合は検討し話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせ軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で近況報告し、安心して頂くと共に、ご家族様との絆を大切に、ご家族だけの時間も提供する。ご家族の協力のもと一体となって入居者を支えている事を理解していただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の今までの繋がりが継続して出来るように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹、子供様など日時を合わせていただけるよう支援したり、ご家族とのふれあいを大切にしている。	コロナ禍により数年支援が難しい状況も続いたが、入居者と家族の関係を大切に、季節の帰宅や入居者と家族の会話の場の提供等を続けてきた。地域からの入居例もあり、家族との交流は地域との繋がりともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押してあげたりなど様子を見ながら、手を差しのべられる方もあります。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。	入居者の状況は様々であるが、それぞれの過ごし方の好みやその日の様子を把握・共有している。訪問時も入居者それぞれが思い思いに自由に過ごす様子が聞かれた。訪問販売車で菓子・パンが並び、訪問の際には入居者が希望の商品を選ぶ姿もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様から情報でアセスメント、フェイスシート作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。	日々の入居者の様子は申送り等で共有している。評価・モニタリングは毎月行っており、入居者のその日の体調変化の気付き等はその場で職員間で話し合い対応を検討し、必要に応じ介護計画の見直しへと繋げている。家族来所の際には意見や要望を確認し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るよう努めている。		

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている。方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しまれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又、往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ている。	入居前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は協力病院の受診も多く、職員付き添いによる通院が殆どである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行つて様子を伺っている。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所でする事を説明し、話し合つて方針を共有している。	重度化・終末期に向けた方針と事業所の対応は入居時に説明し同意を得ている。入居者の日々の体調変化等は職員の寄り添いによる気づきもよく見られ、食事が入らなくなったり治療が必要とされる場合は入院となるケースも多い。実際にその時を迎える際には家族・関係機関と話し合いを重ね支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練地域の方々の支援も受けながら実施しています。日中・夜間の想定し、年2回の消火、通報、避難訓練を実施し、実際に、安全にすばやく対応できるように取り組んでいます。	年2回の避難訓練(昼・夜)は入居者も参加し行っている。訓練の際は消防署からの指導を受け、指摘を受けた点への対応も行き改善した。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。	日頃の業務の中で、オムツ交換や入浴、トイレ利用時等の対応にて管理者から職員へ話す機会を持っている。法人職員も参加する全体ミーティングでは、利用者への言葉遣いや職員間の言葉遣い等についても確認する機会を持った。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服薬等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいます。(月1回訪問理容も利用している)	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。	入居者の好みや希望も考慮し、献立作りから買い物・提供まで各ユニットの職員で行っている。好みの食材を取入れ季節感を感じる食事提供への工夫を運営推進会議でも報告している。毎週パンの移動販売車の来所があり、好みのパンを選ぶ入居者の姿も見られる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。	

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやおむつを確認したり、オムツ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者の身体状況にもよるが、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。訴えが見られない場合には時間をみて声掛け誘導も行う。場所や行動にこだわりが見られるケースもあり、それぞれに合わせた対応を行っている。便秘に備え、水分確認や乳酸飲料等の提供も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをしてもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。	週2回の入浴を基本とし、一対一で支援を行っている。現在は車椅子利用や介護度が高い入居者も増えたことより、安全確保・プライバシーへの配慮を行いながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、健康ウォークに参加した事もあります。	従来より日常的に散歩等を行っていたが、近年車椅子利用の入居者も増え、個々に合わせた外出支援を行っている。通院も外出の機会である。生活の中ではゴミ出しや庭に出る等、数分でも外気を感じる機会作りを行っている。お盆の一時帰宅等、家族の協力も見られる入居者もおられる。	

グループホーム 菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払いするなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来るようになっています。台所での様子や準備に食器を洗う音などが聞こえ、生活感を感じられます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。	玄関ホールを挟み両側に各ユニットがあり、それぞれに台所・浴室も備え、生活が営まれている。台所では毎日三食の食事作りを感じることが出来る。居室・リビングだけでなく、廊下のソファでは外の様子をのんびり眺める姿が見られたりと、思いの時間を過ごす様子がある。廊下等には手摺りもあり安全に移動姿もある。ユニット間の行き来も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトをしており、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。	生活用品からも家族の関わりを感じる。ユニットによっては入居者の状況によりスポンジマットを敷く等、安全への配慮も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置してあり、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 菊陽スマイル

作成日 令和 5年 11月 20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		毎朝のミーティングだけでなく全職員が意見を発言できる全体会議を必要と思われる。	コロナ禍などで実施できていなかったが、日頃のケアの見直し、ユニット間の情報共有の機会をもうける	まずは12月、R6年3月と定期的に会議を開催する予定。	3か月
2		コロナ禍で地域との関わりができなかった・・・運営推進会議がようやく実施できるようになり交流の機会を取り戻す	地域の行事への参加と取組みを実施していく	11/26駅前校区でしめ縄製作、年末の忘年会・カラオケの予定があるとのことで参加を予定しています。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。